

- ・入居者と児童の交流はあるのか?
→本来は交流したいと考えているが実際はない。成人と児童では難しい場合が多い。
 - ・成人同士の交流はあるのか?
→回数は多くはないが、イベント等で他事業所との交流の機会はある。
 - ・人手不足の問題について。若い人等、色々な人が障害者に関わることが大切。親として給料面等、府や国に申し入れをしている。
 - ・親として市民にも理解して頂く機会を増やしたりして、障害理解への啓発を行っている。
 - ・知らないことは不安。見えることで偏見等が少しでも減少すればとの思い。本人さんが楽しんでいる姿を見ることで意識が変わればよい。
 - ・若い親は仕事もあり、考える余裕もないことが多い。考える機会を設けていく。
 - ・教育との連携。八幡市に支援学校ができたことで福祉が進んだ。
 - ・D-JOB(生活介護事業所)では八幡市からの委託で保育園へ草刈りを行っている。継続して行うことで障害者への理解が進んでいく。
 - ・「地域」を基本としてぶれないように動いていく。八幡市は顔が見える人口規模。人口規模が大きければよい訳ではない。
 - ・京都の南部は比較的グループホームが増えている。
 - ・色々な選択の余地があるということは良いこと。
- ★色々な人とのコミュニケーションの場を大切にしていかないといけない。
- ★お互いを理解し合うことが大切である。